

恵まれた環境を大切に

学習院女子中等科

二年中組

田上

美實宝

私達の住む日本では、蛇口を捻れば水が出

てきます。しかしそれが当たり前ではなく、

とても恵まれた環境であることを私は小学四

年生の時に知りました。

私は小学四年生の時に一年弱シンガポール

に住んでいたのですが、シンガポールは国土

が東京二十三区程の大きさで非常に狭い上、

大きな山や川、池がなく、国内で水が確保で

きないので、隣国のマレーシアから水を買っ

ていました。一日当たり最大九億四千六百万

リットルの水を輸入することができ、約三千

七百万リットルごとに日本円で約一円をマレー

シアに支払っています。そして更にそれをシ

ンガポール国内の浄水場で綺麗にしてから、

やっと国民が使うことができました。また、

もし万が一シンガポールとマレーシアの国の

関係が悪くなったり、その供給も途絶えてし

まう危機にあります。そこでシンガポール政

府は貯水池を拡大したり、海水を飲み水にする技術開発に力を注いだり様々な努力をしていました。それでも、私の家では、水道水を飲みたい時には念のため一度沸騰させて、冷ましてから飲んでいました。日本では水の確保・浄水が全て国内で解決できます。さらに水道水をそのまま飲むこともできます。日本にいた時はあまり感じませんでした。この環境は非常に恵まれたものであり、大切にしなければいけないと、その時改めて思いました。

また、小学生の時、学校に水道局の方がいらっしゃって水が巡ることや浄水の仕組みなどを教えていただいたこともあります。雨水と水道水を比較した時にすごく綺麗になっていたところや、水道水とミネラルウォーターを飲み比べた時に、そこまで変わらない味だったことから、日本の技術力の高さを改めて感じました。

通学する電車の中ではたまに、アフリカな

どの発展途上国の子供たちが、綺麗な水がなくて苦しんでいる、といった内容の広告を見かけることがあります。人間が生きていくために綺麗な水がかかせません。しかし、地球上に存在する水のうち、淡水は二・五％程しかなく、さらにその七〇％は南極や北極の氷雪です。生き物が使える水はごく僅かだということです。ことがあかります。更にその中に人間が使えるくらい綺麗な水が僅かにあるあけです。水は限りある貴重なものだと、ぼんやりと思

ったりはしていましたが、しっかりと数字で見ると本当に貴重な水で私達は生活しているということがよくわかります。これから夏はもちろんのこと、地球温暖化などもあり暑くなることが予想されます。打ち水、プール、水分補給などで水を使う機会が多くなると思います。でも、綺麗な水がいかに貴重なものなのかをしっかりと意識して、使いすぎないよう、適度な量で使っていていきたいです。日常生活でも、水道水を出しっぱなしにしない

いようにしたり、お風呂の残り湯を植物の水
やりに再利用したり、自分のできることから
工夫していきたいと思います。